



孫の幸だより



健康思考 健康についての情報誌

2019

10月号

Vol. 29



今月のテーマは

「脳梗塞の早期発見」



お話を伺ったのは：「記事監修」
さくらクリニック 院長 佐藤志津子先生

脳梗塞は、治療開始までの時間が短いほど、後遺症の程度が軽く済むことが多くあります。おかしいな...と感じたら、遠慮せず救急車を呼んでください。

脳梗塞の前兆症状があれば、ためらわず救急車を呼んで！ 症状が消えても安心せず受診を

脳梗塞は、脳の血管が詰まったために脳の一部が死んでしまう病気です。歳を重ねるほど発症しやすくなりますが、20〜40代でも発症することがあり、あらゆる年代の方に注意が必要です。また前兆症状が現れてから、いかに早く専門病院を受診して適切な治療を受けるかが、その後の健康寿命を左右します。脳梗塞の早期発見について、神経内科が専門のさくらクリニック 練馬院長・佐藤志津子先生にお話を伺いました。

片方の手足が動かない、 ろれつが回らない、言葉が出ないなどの 症状があれば救急車を呼んで！

脳梗塞の前触れ	
視覚に関する症状	視野の半分が欠ける
言葉に関する症状	言葉が出ない
運動に関する症状	手足に力が入らない、麻痺して動かせない
平衡感覚に関する症状	めまい、突然のしびれ、感覚が狂い

脳梗塞の代表的な症状は、イラストのようなものになります。片方の手足が動かない、しびれ

る、ろれつが回らない、言葉が出にくくなる、突然のめまい、視野が欠ける、片方の目だけ視野が暗くなる（見えなし）などです。
このような症状があれば、すぐに救急車を呼んでください。「しばらく様子を見よう」と時間を置いてしまうと、取り返しのつかないことになってしまいます。またタクシーなどで病院に向かうと、緊急性がないと判断されて、長時間待たされてしまうことにもなりかねません。途中で症状が急変することもあります。すぐに脳卒中センターなどの専門病院に運んでもらうためにも、ためらわず救急車をよんでください。

これらの前兆症状が1時間以内に消えても、必ず受診を！

前述のような症状が現れても、早いと15分以内、遅くとも1時間以内に消失してしまうことがあります。これは一時的に脳に血流が流れなくなり、症状が現れているもので、一過性脳虚血発作（TIA）と呼んでいます。

最近の報告では、TIAを起こした人の10〜15%は3カ月以内に脳梗塞になり、そのうち半数の人は、48時間（2日）以内に脳梗塞を発症することが多いとされています。

TIAの段階で予防的な治療をすることで、脳梗塞の発症を防ぐことが可能ですし、体に麻痺などの後遺症も残りません。症状が消えても安心せず、必ず受診してください。



脳梗塞の治療は、時間との勝負！ 少しでも早く治療を開始して

脳梗塞の治療は、t-PAという血栓（血管を詰まらせているもの）を溶かす薬を使うことが多

いのですが、最近の統計では、自立した生活を送れる状態まで回復する時間の上限は、発症から270分（4時間半）とされています。特に、太い血管が突然詰まった場合は治療開始は一分一秒でも早い方がいいのです。
病院に到着すると脳の画像を撮るなど検査の時間も必要ですから、少しでも早く専門病院に到着して、治療までの時間を短くすることが肝心です。
かかりつけの先生がいる場合は、電話で指示を仰ぎ、先生から専門病院へつないでもらうのもお勧めです。しかし先生と連絡がつかなければ、すぐに救急車を呼んでください。



脳梗塞を予防するポイント

①水分摂取で血液を下ドロドロにしない
高齢になると喉が渇きにくくなりますので、時間を決めて水分摂取を。また夜間、トイレに起きたときには2〜3口お白湯を飲みましょう。

②不整脈を放置しない
脈を測ってみて飛びがよくなことがあれば受診しましょう。「心房細動」という不整脈を放っておくと、大きな血栓が心臓から脳に飛んで脳梗塞を起こすことがあります。

③家族歴があれば脳ドックを
動脈硬化の危険因子である高血圧や脂質異常症、糖尿病などには、ある程度遺伝的要因があります。新しい血縁者に脳梗塞の方がいたり、糖尿病や高血圧、高コレステロールなどの既往があったりする場合、自分も「なりやすい素因がある」と考えて、人一倍健康管理をした方がいいです。心配な方は、早めに脳ドックを受けましょう。